

城東図書館 2020年6月19日～7月15日実施
「司書が読みきかせした おきにいりの絵本」展 展示図書リスト

CC-BY 4.0

転載等の際は“城東図書館「司書が読みきかせした おきにいりの絵本」展”の表記を入れてください

タイトル	著者	出版者	出版年	担当者からのコメント	ISBN
いっきょいきまあす	長谷川 義史/ さく・え	PHP研究所	2005	『うえへまいりまあす』などでおなじみの家族がカラオケに行きます。童謡ばかり集めた絵本と油断していたら石川さゆりや山本リンダの曲まで登場します。読み聞かせには心の準備が必要かもしれません。	978-4-569-68552-6
いないいないばあ	松谷 みよ子/ 文	童心社	1981	ネコやクマ、キツネなどの動物が順番に“いないいないばあ”をします。見開きで展開するので遊びながら読める絵本です。読み聞かせの基本のような作品といえるでしょう。	978-4-494-00101-9
うえきばちです	川端 誠/作	BL出版	2007	遠くからでもはっきり見える絵。テンポのよいテキスト。シャレが効いている一方で、ちょっと怖い展開。1対1で読むにも、集団に読み聞かせるにも、どちらにも適した絵本です。学校で朝顔を栽培している子どもたち相手だと、ブックトークにも使えます。小さな子はもちろん、その気になれば中学生まで楽しめます。	978-4-7764-0250-3
うしはどこでも「モ〜!」	エレン・スラスキー・ワイン スティーン /作	鈴木出版	2008	いくつの子どもでも楽しめますが、小学校の中学年から高学年に向けて読み聞かせることが多い絵本です。いろいろな動物の鳴き声を外国語で楽しんでいるところに入ってくる牛の声。緊張と緩和が楽しめる絵本です。	978-4-7902-5193-4
おー、うんこ	松下 美砂子 /[作]	架空社	1997	見た目は普通のブタなのに、食べれば食べるほどどんどん大きくなっていく。非現実的になっていく展開に読み手の緊張感も高まります。けれども、読み終わるととてもすっきりする作品。	978-4-87752-103-5
おおきなかぶ -ロシアの昔話-	A.トルストイ /再話	福音館書店	1963	昔から読み継がれてきた定番絵本。読むのに慣れてしまうと、おじいさん・おばあさん・まご・いぬ・ねこ・ねずみの順番を間違えて読んだり、飛ばして読んだりしてしまうことがあるので注意が必要な作品です。	978-4-8340-0062-7※
おしくら・まんじゅう	かがくい ひろし/ さく	ブロンズ新社	2009	おしくらまんじゅうのかけ声が楽しい絵本。子どもを膝にのせてギュと抱きしめながら読むと楽しい絵本です。ちょっとふざけながら読むのもいいかもしれません。	978-4-89309-666-1
おばけだじよ	tupera tupera/ さく	学研教育出版	2015	怖いオバケのはずなのに、どことなくユーモアとかわいらしさを感じる作品。前半と後半とで展開がグッと変わるので、なんとなく読み方も変わります。	978-4-05-204260-7
ガンジーさん	長谷川 義史/ 著	イースト・プレス	2011	「にんげんはカトリセンコー」のところをいかに読むかがポイント。この絵本はモデルになった有名人を知っているかどうかでかなり印象が変わると思います。担当者は中島らものエッセイでこの人を知りました。	978-4-7816-0664-4
串かつやよしこさん	長谷川 義史/ 作	アリス館	2011	串カツ屋さんを舞台にした絵本。中身はダジャレのオンパレードです。韻を踏むように読んでいくと、とても楽しく読むことができます。絵の端々にある細かな遊びも楽しいですよ。	978-4-7520-0533-9
こちょこちょ	福知 伸夫/ さく	福音館書店	2011	見開きの変化で楽しむ絵本。子どもとくすぐりあいっこしながら読むと、とても楽しめます。太い線で描かれた絵も魅力的。	978-4-8340-2656-6
サンドイッチサンドイッチ	小西 英子/ さく	福音館書店	2008	食材を一つ一つ確かめるようにして読んでいく絵本。子どもと1対1で読むときは、時々つまみ食いするふりを交えてもいいかもしれません。	978-4-8340-2375-6
じゃがいもポテトくん	長谷川 義史/ 作・絵	小学館	2010	北の国からやってきたジャガイモ一家の別れと再会の物語。少しだけ情感を込めて読むととても楽しめます。一通り読み終えたらあちこちに登場するイカを探したり、タコが起こした事件の背景を想像したりと、いろいろな楽しみ方ができます。	978-4-09-726421-7
しゃっくりがいこつ	マージェリー・カイラー/ 作	セーラー出版	2004	しゃっくりが止まらなくなったガイコツの苦勞を描きます。ガイコツならではの怖さが、何となく笑いつながる作品です。しゃっくりをうまく表現できるかが読み聞かせのポイントかも。	978-4-88330-150-8

だるまさんが	かがくい ひろし/さく	ブロンズ新社	2008	幼稚園・保育園での定番絵本。図書館でもこの本を取り出すと大喜び。みんな一緒にドテッとこけたりプツとおならをこいたり。知っている子どもが多いので、本当に「おなじみ」の絵本です。	978-4-89309-431-5
だるまだ!	高島 那生/[作]	好学社	2015	ある日突然大量に漂着するだるま。なんだかんだとだるまを受け入れる人々。そして暮らしに溶け込んでいくだるま。どう考えてもおかしな話だけど、独特の雰囲気について引き込まれてしまう作品です。	978-4-7690-2321-0
だるまなんだ	おおなり 修司/文	絵本館	2013	「だるまさんがころんだ」のフレーズをどンドンとアレンジしていった、7人(?)のだるまがいろいろな芸をしてくれます。歌うように読める絵本。	978-4-87110-092-2
たんたんぼうや	かんざわ としこ/ぶん	福音館書店	1998	テキストのリズムがとても良く、読み手も楽しめる作品。歌のように覚えられるので、子どもと一緒に読める絵本です。	978-4-8340-1532-4
ねこガム	きむら よしお/作	福音館書店	2009	風船ガムを膨らませたら、風船がネコの顔になって…。物語はナンセンスですが、読んでいくうちに高まる緊張感は読み聞かせの時にポイントになるころだと思えます。	978-4-8340-2422-7
はっきよいどーん	やまもと ななこ/作	講談社	2015	相撲の優勝を決める大一番の取組を描いた作品。相手の名前は武留道山(ぶるどうざん)!相撲に凝縮されている緊張感や駆け引きが余すところなく描かれるので、読み聞かせの時も力が入ります。	978-4-06-133259-1
バナナじけん	高島 那生/作	BL出版	2012	落とし物のバナナをめぐる起こる騒動を描きます。登場する動物たちの個性が生む楽しさにはスラップスティックな笑いの要素も含まれていて、大人も楽しめる絵本です。	978-4-7764-0569-6
へんしんトンネル	あきやま ただし/作・絵	金の星社	2002	小学生に読むといつでも大ウケする絵本。ことば遊びの楽しさがわかる分、キチンと表現するには読む前に予習することが重要です。読み聞かせの時は息継ぎのタイミングに気を付けましょう。	978-4-323-03349-5
ぼくのおじいちゃんのかお	天野 祐吉/文	福音館書店	2009	おじいちゃんの色々な表情を集めた写真絵本。楽しく読める作品なのですが、読み進めていくうちにモデルのおじいちゃんの表情のなかにその人生が見えてくるような感覚にとらわれます。大人の方がちょっとグツとくるかもしれない本。	978-4-8340-1187-6
やさいさん	tupera tupera/さく	学研教育出版	2010	畑でとれるいろいろな野菜。地面にでている葉っぱがヒントになったクイズ形式の絵本です。1対1でも、集団への読み聞かせでも楽しめる作品。	978-4-05-203298-1
ワニあなぼこほる	石井 聖岳/作	イースト・プレス	2010	ワニが穴を掘る。ただ、その穴というのがとにかく大きい。穴を掘るという行為に呼応し、協力して掘り進めていくワニたち。人間のように描かれつつも、食事の時に見せる野性味はワニそのものだったり、その落差がとても楽しい本。読み聞かせの時は工事現場をイメージするのがおすすめです。	978-4-7816-0475-6
わにわにのおふる	小風 さち/ぶん	福音館書店	2004	普通の日本の住宅に、なぜかいるワニ。お風呂も自分で沸かして入ります。人間らしく描かれるのだけど、お湯につかる時や、濡れた体をタオルで拭く時の動作はワニそのものだったりします。読み聞かせではそんなワニの野生を意識して読んでしまいます。子どもたちに人気のシリーズ。	978-4-8340-1970-4
わにわにのごちそう	小風 さち/ぶん	福音館書店	2007	普通の日本の家で暮らしている(らしい)ワニ。冷蔵庫で肉を見つけて(ワニだけ)フライパンでじゅうじゅうと焼いて食べます。ずいぶん人間っぽいワニなのですが、その後の食べっぷりはワニそのものだったりして、読み聞かせの時も食べる場面が楽しいです。	978-4-8340-2255-1

※ 『おおきなかぶ』のISBNは2007年発行の「こどものとも絵本」版のものになります。

